

# Point

J R 東海 大阪修繕車両所分会分会情報

No. 152 2012. 01. 01.

発行責任者 坂東 貞男

編集責任者 教 宣 部

## 年頭に当たって

分会長 坂東貞男

あけましておめでとうございます。

昨一年間、分会活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。

昨年を振り返ってみますと、3月11日、東日本大震災により甚大な被害が発生しました。また、震災による福島第一原発事故は日本だけではなく地球全体に放射能を撒き散らしました。12月16日、野田佳彦首相は、福島第一原発の事故収束に向けたステップ2(冷温停止状態を達成)の終了を確認し、記者会見で「発電所の事故そのものは収束に至ったと判断される」と事故収束を宣言しましたが、県民の中には不安を感じている方が、大勢おられます。原発事故から10か月が経とうとしていますが、除染や住民の帰還など多くの問題が残っており、未だに帰宅できない方々や仮設住宅で苦勞されている方々は多くおられます。一刻も早い復興を願いたいと思います。

明るい話題として、私たち東海労に2名の新しい仲間を迎えることが出来ました。2名の加入の理由は、組合員が困っているときに組合は何もしてくれなかったというものでした。私たちはJR東海の中で圧倒的に少数であり、なかなか要求を勝ち取ることは難しいことですが、どんな時も仲間のことを思い一緒に闘うというヒューマニズムを第一に運動を展開しています。私たちの当たり前の労働運動が、2名の加入を勝ち取ったことで正しいことが証明されました。。

昨年11月21日、JR東海会社は、リニアの早期着工を実現するために今まで問題になっていた中間駅の建設費をJR東海が全額負担することを発表し、何が何でも着工へと突き進むことを表明しました。リニア建設は、巨額の建設費・環境破壊・電磁波の問題・原発問題も絡む電力の問題など多くの問題が山積しています。そして私たち社員には増々人件費の抑制や経費削減で社員にしわ寄せが来ることが予想されます。だからこそリニア中央新幹線建設の反対の闘いを展開していこうではありませんか。

昨年、明らかになった乗務員の業務中の私物携帯電話使用問題で、会社の発表では同僚社員が管理者に報告したことが発端となっています。勿論、管理者に報告した社員を悪くいうつもりは全くありませんが、このことを聞いた社員の多くが「何故」と思ったことでしょう。これが現在のJR東海の職場・人間関係の現状です。新賃金制度の導入以降益々社員間での競争が激しくなり、同僚を蹴落としてでもという自分さえよければという風潮が出てきているようにも思います。

このように社員が見張り・見張られることによって、社員個々がバラバラになることで、会社(経営者)は労働者の団結を疎外し、労働者を孤立化させて、「規律と忠誠心」「命令と服従」で支配しようとしています。だからこそ労働者が団結して会社・管理者にもの申すことが大事であり、もの申せる職場が大事です。またそういう職場でないと安全は守れないと思います。

大阪修繕車両所分会執行部は、職場の労働条件の改善、そして「もの申せる」明るい職場を目指し、あらゆる闘いの先頭に立って労働者らしく奮闘していきますので、本年もご協力お願いいたします。

組合員皆様とご家族の健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

